



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：イラクへの人道支援として5億ドルの拠出を表明

7月1日、アブドゥッラー国王は、イラクへの人道支援として5億ドルの拠出を表明した。同支援は、国連を通じて実施され、宗派を問わず、イラク国民のみを対象とする。2日、オバマ大統領はアブドゥッラー国王に架電し、サウジアラビアによる支援に対して謝意を表明した。また、イラク情勢につき、イラクの指導者に挙国一致内閣を樹立させることが必要であることを再確認した。

評価

6月17日にはルー財務長官が、27日にはケリー国務長官がサウジアラビアを訪問し、イラク情勢について協議しているとおり、今般のイラク情勢について米国とサウジアラビアは緊密に連絡を取り合っている。双方ともイラクにおける挙国一致内閣の樹立を政治目標としており、政策レベルでも合意が見られる。

当初は、サウジアラビア等の湾岸アラブ諸国がイラクのスナ派過激派を支援していると考えられたことや、米国とイランがイラク情勢への対応に関して接近したことで、サウジアラビアと米国の関係が悪化するのではないかという見方が各所から流れた。しかしながら、今回の5億ドルの支援表明が示すように、米国・サウジは双方ともに二国間の連携を強化する意向だと言えよう。

他方、一時接近が見られた米・イラン関係であるが、6月22日にハーメネイ最高指導者が米国によるイラクへのいかなる干渉も拒否すると激しく米国を非難したように、表面上は関係改善の動きはない。もっとも、米国、イランともに、イラク政府への軍事顧問の派遣や、イラク領内における偵察活動の実施、兵器の供与などを行っているということであれば、現場レベルで協調体制が築かれている可能性は否定できない。

(村上研究員)

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799